

2003 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 4 年 3 月 1 7 日 作 成)

委員会名	木質構造動的性能評価小委員会	主 査 名：宮澤 健二
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (木質構造運営委員会)	委員長名：西川 孝夫 主 査 名：鈴木 秀三
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	動的な問題(地震入力、各部の動的強度とエネルギー吸収性能、柔床・偏心を有する建物の振動等)について討議し、動的耐震設計法の基礎資料を作成する。 初年度：耐震設計の問題点の整理、2 年度：各種構造要素の動的性能評価、 3 年度：建物全体の動的性能評価、4 年度：動的耐震設計法の検討	
委員構成 (委員名(所属))	宮澤健二(主査、工学院大学)、山口修由(建築研究所)、五十田博(建築研究所)、 入江康隆(宇都宮大学)、大橋好光(熊本県立大学)、河合直人(国土技術政策総合研究所)、 木林長仁(竹中工務店)、後藤正美(金沢工業大学)、中尾方人(横浜国立大学)、 永原克巳(大林組)、花里利一(大成建設)、三井信宏(森林総合研究所)、 村上雅英(近畿大学)、米沢友里(三井ホーム)、綿引誠(住友林業)	
設置 WG (WG 名:目的)		
2003 年度予算	200,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2003 年：4 月 25 日(9 名)、6 月 5 日(12 名)、9 月 5 日(13 名)、7 月 17 日(11 名)、9 月 26 日(12 名)、11 月 13 日(6 名)、12 月 17 日(6 名) 2004 年：2/20(7 名)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 昨年度の検討に基づき、基礎データ収集・試験法、解析モデル作成法、動的挙動把握、応答予測に関する資料の収集、データベース化の準備、問題点の整理を進めた。2003 年度は、春から秋にかけて、岩手県、宮城県、北海道の各地で木造建築物に地震被害が発生したため、これらに対応して、既存の震害調査法を整理するなどの作業を行い、今後の震害調査を円滑に進めるための準備を行った。 本小委員会の成果は、2001 年 11 月にシンポジウム「木質構造の新しい耐震設計の考え方」を開催して公表してきたが、今後は、構造設計者等を対象とした「木造建築物の設計ノート」と、工務店等を対象とした「木造住宅の簡易耐震設計法」の 2 つのレベルで成果をとりまとめる方向を採用する事とした。このため、2 つのレベルの成果をとりまとめることに対応した、問題点の整理、基本事項の検討を行った。これらの作業は、小委員会を改組し 2004 年度から新たな小委員会及び WG で作業を継続することとした。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 目標とした、基礎データ収集・試験法、解析モデル作成法、動的挙動把握、応答予測に関する資料の収集、問題点の整理のうち、基礎データ収集に関しては、おおむねとりまとめが終了した。その他については、部分的な整理を終了した。成果のレベルを 2 つに分けることで対応し、残りの作業も内容を整理する必要がある。これらについては、2004 年度以降新たな小委員会で作業を進める。
その他評価すべき事項	2003 年度は、春から秋にかけて、岩手県、宮城県、北海道の各地で木造建築物に地震被害が発生したが、木造建築物の震害調査法の整理が行われていなかった。今後の震害調査を円滑に進めるため、震害調査において学会が担うべき役割を検討した。